

告158-3
(告158-2の反訳)

今野：いや、私はちょっと、そのう、野村さんから、そのプロポーザルの内容について企画立案書を出してほしいっていうときに、副町長に相談して、副町長からそういうお話を聞いたんです。

野村：あなた、自分の判断じゃなくて、副町長に相談したわけでしょ？

今野：してます。

野村：それは副町長の判断じゃないですか、今回ね、何も出さない、という判断をしたのは。あなたと副町長の位置関係、権力関係を比べればね、副町長の上ですよ。副町長がごうしろと言ったらね、あなたは従いますよ。普通は。今回の副町長のね。差し金ですよ、何も出さないでやれって言ったのはね。やっぱ差し金って言葉はね、ちょっと砕けた言い方しましたけどね。権利権力関係からいけばね、副町長の意見を通るのが当たり前でね、あなたは権力者に言うことに従ってればね、自分の身は安泰だからね、そういう選択するのはね、一小役人として当たり前ですよ。ごめんなさいね、言葉が、失礼な言葉があって。少なくともねあの副町長がね、意思決定をしたとみなされるのがね、あたりまえですよ。今回のものに対してね。これ、あなた、ちゃんと記録録ってますからね、しっかりと。今回の件ね、僕がここまで声を荒げてね、怒ってるのは、あんたが多分ね、後ろ盾があるからね。

野村：何か言われても。「副町長が言った」と言えばね、自分ね、自分のポジションは安泰だとくらい思ってるかもしれないけどね、とんでもないことなんだよ。それを副町長がやってるんだったらね、「副町長から言われたからやってる」ってことだったら、副町長の責任ですよ。これ副町長にちゃんと確認した方がいいよ。

今野：やってるっていうより、相談させていただいた・・・

野村：副所長に代わってください。副町長に電話代わってください。あなたお話にならないよ。結局ね、自分で判断しないでね、副所長が言ったからというその後ろ盾があるからね。そこまでね、そこまで僕に失礼な言い方ができるんだよ、何も自分がわからないでね、そういう突っぱねることができるんだよ。

今野：失礼な言い方はしてるつもりはないです。失礼な言い方はしてるつもりはないんです・・・

野村：ありますけどね。端々に。

野村：あ、そうですか。副町長いらっしゃるか、どうかちょっと分かんないんで。

野村：これ、でもね、あのね、あなた方がそこまで突っぱねる理由が分かりましたから。後ろ盾があるからですよ。それはそれでいい。「副町長がこう言ったから出せなかった」とそれはね僕が出し直してね、その次どうなるか、その次に出すのか、また出さないで、審査請求で出すのか、審査請求でも突っぱねてね、岩内地裁に行つてね、そこでもあなた方が頑張るのか、出すのか、そこはちょっとどこまでやるのか見ますよ、僕は。あなた方がそこまで頑張るんだったら。でもね、ちょっとこれね、いま言いかけた話に戻りますけどね、業者がね、出したくないのは当たり前であつてね、でもね、少なくとも採用になった段階でね、「オープンしますよ」ぐらいはねね。あなた方が言つて当たり前であつてね。あなた方がね、それを一切の情報をね、開示する情報開示の可能性をね、示唆しないでね、後からに情報開示請求を受けてね、

野村：そもそも自分たちの文章じゃないからね、文章を作った人にね、お伺いを立てる、これ自然ですよ。逆の立場だったら、僕もそうするかもしれませんよ。ただね、ただそれをね、業者がね、嫌がるのは当たり前であつてね、業者は当然ノウハウなり云々ありますから。嫌がらない当たり前だつてね、その業者の言葉を盾にしてね、それを丸々自分たちの判断の根拠としてしまうことに対してはね、僕はとても問題を感じますよ。

そんなことやってたらね、プロポーザルの入札なんかね、いっさい公平性が保てませんよ。考えてみてください。どっかの町でね、「なんか入札があつたみたいだよ」と、出来た後にね、「これ。なんか。この前のホームページだつて」「いくら掛かったの?」「750万だつて」「えっ!これが・・・」「本当にこれが750万もかかったの?ちょっと見してよ、どんなの?」と言つたらね、真っ黒け。真っ黒けじゃなくて何も出しませんと、真っ黒ののり弁どころか何も出さない、と、「何で出さないんですか?」つて聞いたらね、「いや業者が出すなど言ってるから」と。これね。ずぶずぶの癒着やりたい放題なんですよ、こんなことをあなたがやってたら。僕の言っていること、あなた多分理解できないでしょうけどね。理解できないでしょうけどね、やりたい放題になっちゃうんですよ、業者とね、行政のね、癒着がね、やりたい放題になるんですよ。貴方は、それやってるんだよ。何の疑問も持たずに

今野：やってはいないと思いますけどね。

告 1 5 8 - 3
(告 1 5 8 - 2 の反訳)

野村：実際やってるでしょ。まさに僕がね。今ね、例えばの話で言ってることはね、蘭越町で僕がやってることなんですよ、「これが本当に750万？」というのを調べようとしてね、聞いたら、あなた方はね。

今野：はい。

野村：契約書書けば金額は出るよ。契約の内容はでるよ。でも一体何に対しての750万なのかね、いっさい明らかになってないわけでしょ。その根拠を僕は(不明)8月10日に求めた。それに対してあなた方は秘匿なんですよ。完全秘匿なんですよ。いっさい出してないんですよ。それはね、業者と、それから行政のね、癒着のね、巣窟になることはね、誰が見ても容易に予想できることであってね。それはあなた方ね、平気でね、当たり前のようにやってるんですよ。それはあなた理解できないんですよ。

今野：いや、でも、IP ネットさんにも電話して聞いてるんですよ？

野村：聞きましたよ。業者に聞けば、「嫌」だっていうのは当たり前でしょう。

今野：それでうちも企画立案の関係を開示できるかどうか、業者さんに聞いて、「それはやめてください」っていう・・・

野村：業者に聞いたら「ダメ」っていうのを当たり前でしょう。

今野：ですから出してません。

野村：違う。さっきも言ってる通りね、あなたはそこで責任転嫁をしてるんだよ。責任転嫁をしてね、さっきの出せない件については、町長に責任転嫁をしてね、「自分の判断じゃない」と。でね、出さなかった根拠については、その業者がダメというと、業者が言ってるから「自分の判断じゃない」と、全てあなた責任転嫁してるよ。でもさっき言ってる通りね。さっき言ってる通りで、僕がなんでここまで問題視するかというとね、あなたがね、当たり前のように言ってる責任転嫁をね、許しちゃうとね、行政という行政とね業者の癒着がね、全くチェックできなくなっちゃうんですよ。だからここまで僕は声を荒げて言ってるんですよ。反論してください。

今野：癒着もなんもないんで、反論のしようもないんですけどね。

野村：癒着なんかね、いっぱいあるさ。密室の犯罪なんか表ざたにならないからね、

告158-3
(告158-2の反訳)

ほとんど表に出ないだけでね、いっぱいあるよ。僕はほぼ全てをね、クロにすることはできないよ。捜査機関がね、本気で調べたってね、クロにできない方が多いよ。密室犯罪って、そんなもんだよ。だからね、それを自分たちがやってないと言ったからね、それは真だなんて判断をね、誰もしないよ。それをするのは情報公開なんです。ある程度ね、自分たちのね、懐の中を見てね、ここまで僕たちはね潔白なんですよ、ここまで見せてるでしょう、ということが情報公開なんですよ。

今野：もう癒着とか、そういうのは全然わからないんで。

野村：当たり前だよ、やったってシラ切りますよ。やってる人こそシラを切りますよ。最後の最後まで。動かぬ証拠を突きつけられるまで「やってない」と言い続けますよ。そうゆうもんですよ。密室の犯罪っていうのは。だから、行政と業者のね、お金のやり取りにはね、透明性が必要なんですよ。そのために情報公開制度があるんです。

今野：それは存じてます。

野村：あなたはそれを反故にしたんですよ。（不明）駄目な箇所を黒塗りにするんじゃないくてね、いっさい秘匿したんですよ。これ、これちょっとまたこれでもうちょっともう、もう聞きたくない。これ、今ね、あの演説のように言ってることはね、どこの行政に対しても通用することね、あなたがまさにね、キョトンとしてるようにね、自分のことをね、全く自分がも何の問題なのかもね。

野村：多分あなたは全く理解してないよ。僕の言っていることが理解できてないよ。

今野：できてないと思います。

野村：できてないと思うよ。あなたに言っても虚しくなるわけだから、僕はエネルギーを消費するだけだからね、これはもうね、蘭越町に言うのは止めました。蘭越に言ってることを題材としてね、全国の自治体に対してね、あなた方の処はこんなことやってないでしょうね、っていうアピールに変えますよ。僕がね、全国で「こんなことやるな」という教育の教材にしますよ。疲れる僕は。

野村：あんたに言っても疲れるからね、この後の話は、実際どうなるかを見てからにしますよ。あなたと深い話は、もうしません。どうやって見るかをね、事

告158-3
(告158-2の反訳)

務的に判断してねね、見える場所で意見しますから。はいありがとうございました。

今野：はい。